

延岡大空襲から74年



空襲後、焼け野原となった延岡市街地。

6月29日は、太平洋戦争末期の1945年、延岡大空襲がかった日です。

前日（28日）夜11時ごろから、アメリカ軍のB29が延岡に飛来しました。照明弾が投下されましたが、上空を通過するだけと思い、防空壕から家に戻った市民もいたそうです。

しかし、29日午前1時過ぎから、大量の焼夷弾が降つてきました。アメリカ軍の記録によると、「B29 117機、焼夷弾10万発、91分間」の空襲だったそうです。

ヒューという投下音が聞こえると、慌てて蚊帳からはい出し、防空頭巾をかぶる間もなく逃げ惑うお年寄り、おんぶ紐で赤ちゃんを背負い、両手に幼子の手を引いて走る母親、床下の防空壕へ逃げ込む家族……。延岡大空襲で亡くなつた人は、320名といわれています。しかし、労働員など市外から延岡に入り、犠牲になつた人がほかにいたのではないかとみられたのではないかといわれています。

しかし、今は違います。日本国憲法には、はつきりと「戦争の放棄」が謳われています。さ

らに、日本は国民主権です。

歴史は、今と未来に生かすた

めにあります。新しい「2割の人」に、戦争を繰り返させない

ることもできるのです。

ためにも。

（総務省HP、「延岡市史」、「タ

刊ディリリー」他より）

じんけん通信

第4号
(通算12号)
2019年
6月28日

【文責】
人権・同和教育
担当：長友伸二

先の大戦における、延岡の戦橋の碑を建て、今日、その事実を静かに称えています。
あらためて哀悼の意を感じる日です。



商工会議所前の「命の橋」の碑。裏にその由来が書いてあります。立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

空襲の際、多くの市民が安賀多橋の下に逃げ込み、救われました。2015年、安賀多橋北詰・延岡商工会議所前に「命の橋」の碑を建て、今日、その事実を静かに称えています。

しかし、今は違います。日本国憲法には、はつきりと「戦争の放棄」が謳われています。さ

らに、日本は国民主権です。

歴史は、今と未来に生かすためにも。

ためにあります。新しい「2割の人」に、戦争を繰り返させない

ことがあります。世の中の出来事のうち、8割のことは2割の要素が握っているという経済用語です（例えは、上位2割の営業マ

ンが売上げ全体の8割をあげる

など）。そうなれば、先の大戦においても、2割の人が戦争を進

め、犠牲者はそのほかの人（市民）だつたということではない

でしょうか。それは、市民たちが開戦の賛否を決めることがで

きなかつた時代ともいえます。

しかし、今は違います。日本

が開戦の賛否を決めることがで

きなかつた時代ともいえます。

しかし、今は違います。日本